

## I 学期学校訪問から学んだこと⑤ 学校における働き方改革の推進

- 勤務時間の客観的な把握と適正な管理（働き方改革に資する1年単位の変形労働時間制の活用を見据えて）
- ICTを活用した業務改善の積極的な推進【I改善運動】（プラン冊子43ページの例示を参考に）
- 学校現場の負担軽減ハンドブックの活用と好事例の共有

『芯の通った学校組織』推進プラン第3ステージ中間年に向けた取組方針について（依頼）」令和3年3月5日付 教委教改第1442号

各学校においては、勤務時間の管理はタイムカード等により客観的に把握し、必要に応じて指導も行っていますね。

また、効率化においては、1人1台端末を活用した生徒による授業評価や、メールシステムを活用した保護者アンケートの集約等ICTを効果的に活用しています。また、会議を効率的に行うために、PDFによる資料の事前配布や、ZOOMを活用することで職員室に集まらなくても会議が予定時間に実施できる等の報告もありました。

しかし、「やるべき業務が多すぎる（イヤイヤ残業）」や、「子どものため（イキイキ残業）」という考えもあるので、意識改革がなかなか進まないというご意見も聞きました。

イヤイヤ残業が続けばストレスが高くなりメンタルヘルスが心配です。イキイキ残業の方は身体を休めることが少なくなり過労死につながる事になります。だからこそ、これからも働き方改革を組織的に、協働的に推進する必要があります。

### 中教審（中央教育審議会） 学校における働き方改革 答申

‘子供のためであればどんな長時間勤務も良しとする’という働き方は、教師という職の崇高な使命感から生まれるものであるが、その中で教師が疲弊していくのであれば、それは子供のためにはならない。

教師のこれまでの働き方を見直し、教師が我が国の学校教育の蓄積と向かい合って自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになることが学校における働き方改革の目的であり、そのことを常に原点としながら改革を進めていく必要がある。



妹尾昌俊氏

## 「あなたは『働き方改革』を”なんのため”にやっていますか？」

妹尾昌俊氏（文科省学校業務改善アドバイザー、中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員）は、職場の中で、「働き方改革」の理解と納得感を高めること最も大切だと言われています。以下のスライドは「学校の働き方改革『先生が忙しすぎる』をあきらめない（NITS教職員支援機構）」の抜粋です。このような視点で、職場で話し合ってみてはいかがでしょうか。

### 働き方改革を進める上でのポイント

1. 「なぜ働き方改革を行うのか」についての理解と納得感が高いか。
2. 多忙の内訳を見て、真にメスを入れるべきところに取り組んでいるか。
3. 子供のためになる、教育効果があるものなから、取捨選択、優先順位づけができていないか。

### 「それって、なんのためでしたっけ？」を大切に

- ・運動会はなんのためにやるのか？保護者を喜ばせるため？見栄を気にして児童生徒にとっても、教職員にとっても過重な負担になっていないか？
- ・修学旅行は、“修学”になっているだろうか？
- ・部活動はなんのため？大会・コンクールに入賞することが一番の目的じゃないですか？
- ・主体性のある生徒を育てたい、とか口にしておきながら、実際の授業や行事では、教師が過保護にしているか？

### 考えよう。話し合ってみよう。そして行動に！

1. どんな24時間にしたいですか。長時間労働の日々のままでいいでしょうか。
2. 身近なことで、「なんのためだっけ？」、「ちょっと過剰になっていないか？」、「非効率だなあ」と思うことはありませんか。
3. 上記1.の理想に近づき、2.を改善していくために、あなたの学校では、どんなことから取り組みたいですか。

白杵市立海辺小学校は、働き方改革の「目的」「現状」「目標」を共有し、その上でICT活用による業務の精選・効率化や計画年休等、10項目の取り組みを定めていました。働き方改革だけでなく、行事や会議のあり方についても、その目的や目標を合意形成することで、職員の意識改革に繋がると感じました。

「学校評価の4点セット」も、重点目標を「資質・能力」とすることで、「何を教えるか」から「何ができるようにするか」と、子どもを主語にした視点で見直してきました。子どもが育つためには、教職員だけでなく、地域や保護者の力、そして何よりも子ども達の力を信じて任せることが大切だと思います。

改めて、「働き方改革」について考えて、行動してみませんか。



### 白杵市立海辺小学校 働き方改革の取り組み

#### 【目的】

- 子どもと向き合い寄り添う時間の確保のため
- 職員が健康で明るく元気よく働くため。←子どもに直結

#### 【現状】

・・・<紙面の都合で省略します>・・・

#### 【目標】

- 本来、子どもと向き合うための仕事の中に溶け込んでいく多種多様な雑務を整理し、自ら切り分けていく。
- ・学校や教職員の業務範囲を明確にする。
- ・限られた時間の中で、子どもと向き合う時間を確保する
- ・子どもの指導を持続的に行うことができる状況をつくる。
- ・心身共に健康な教職員になる。
- ・自らの働き方を見直し、変えていく。

#### 【取り組み】

<具体的な10の取り組みを、時間管理、意識改革、組織管理、業務管理、健康安全管理の観点と共に示しています>